

年上の司書と囁く夜

一本の中で生まれる秘め事！



カイルさん！

カイル

この新刊
面白そうじゃ
ないですか？

翔しょう
もう
閉館の時間だよ

これカイルさんが
おすすめしてた
シリーズの新作ですよ！

一緒に
読みませんか？

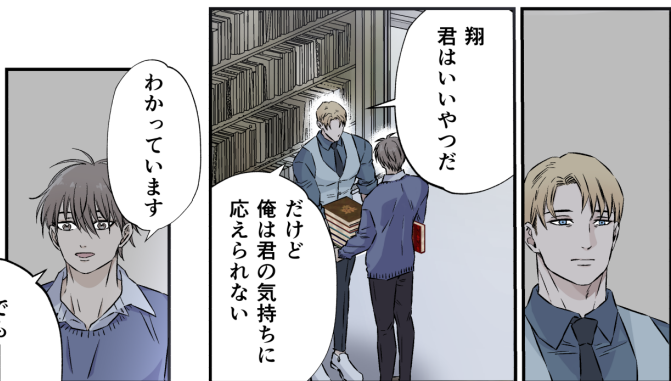
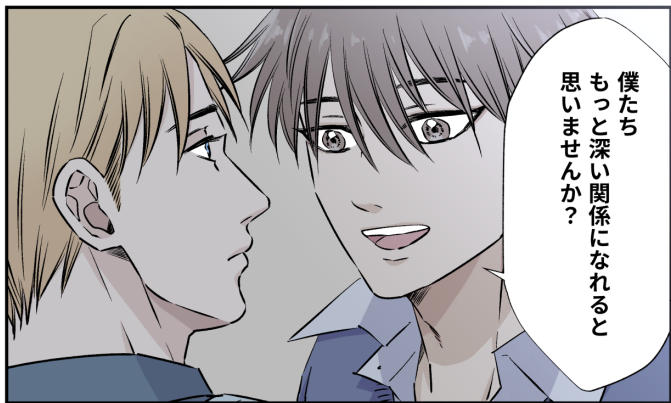
俺は一人で
読むのが好きだ

今度この作家の
トークショーが
あるんですよ！

一緒に
行きませんか？
(囁)

君は他に
誘う友達が
いないのか？
(囁)

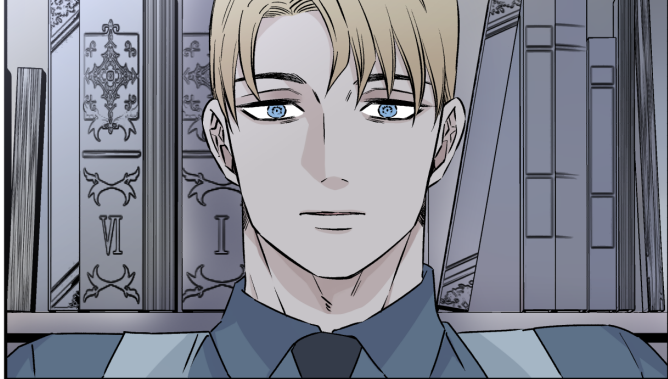






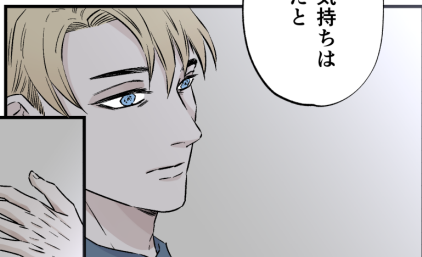
今日だけは
僕の想いを
受け止めてください





あなたには
知っていて
ほしいんです

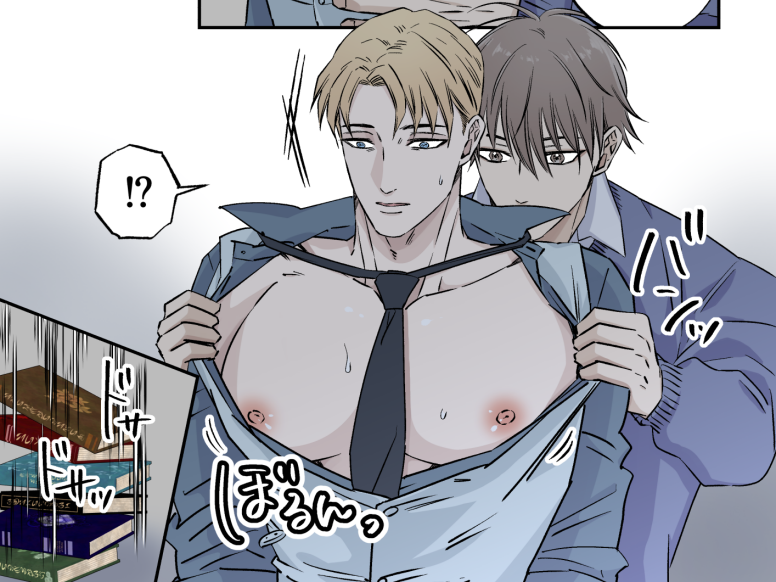
僕の気持ちは
本物だと

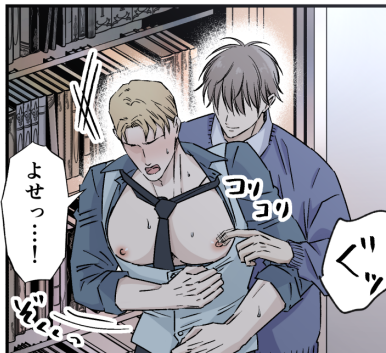
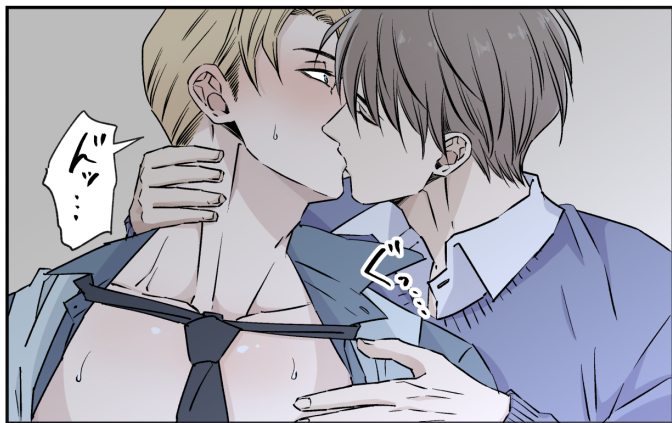


翔：
これは

君が何をしたか
分かってるのか？







君はまだ
20代の前半だ

俺がそばにいるで
君の可能性を
狭めてしまうかもしれないっ

カリ
カリ
カリ

あ……

うっ……

カイルさんのおかげで
僕は読書の楽しさを
知りました

あ……
あ……
あ……

あ……

あ……
あ……
あ……

カリカリ

んっ
びびっ

くらっ

これ以上は
本当に
後悔するぞっ…!!

後悔するのは
伝えられずに
終わることです

!!

今この瞬間に
後悔はありません

びびっ

カイルさんの
身体は
とても素直ですね

馬鹿っ……!

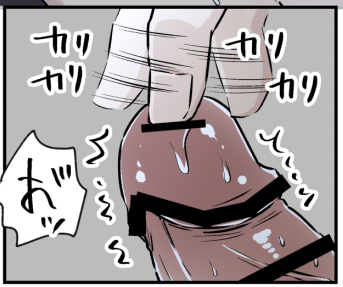
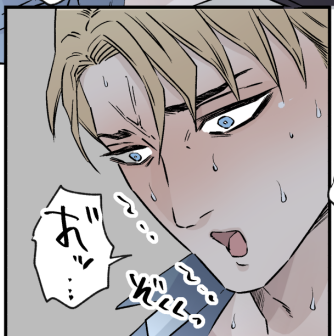
おしっこの穴
カリカリされるの
好きですか？

んっ

ちがっ……

カリ
カリ
カリ

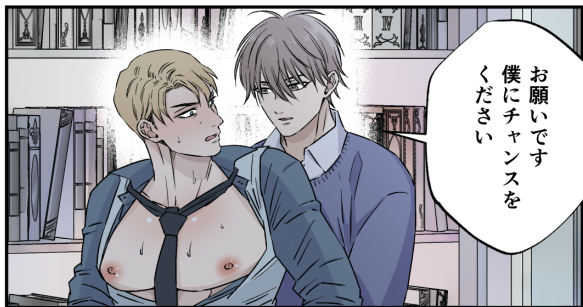
ふっ
んっ





君の
せいでっ……!

カイルさん
閉館後とはいえ
大きな声は
ダメですよ？



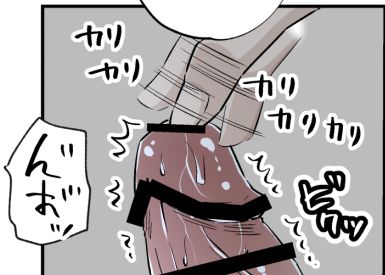
お願いです
僕にチャンス
を
ください



翔

君の一途さは
他の人なら
幸せにできるっ…

僕が選ぶ幸せは
カイルさんと
過ぎず時間です

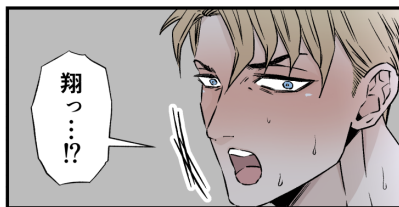
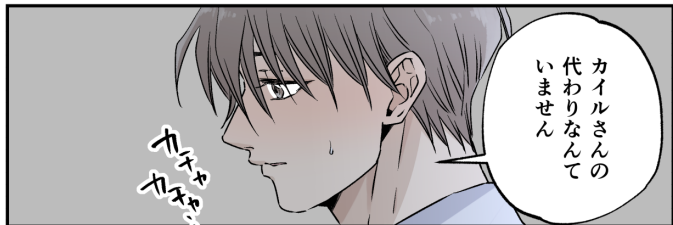
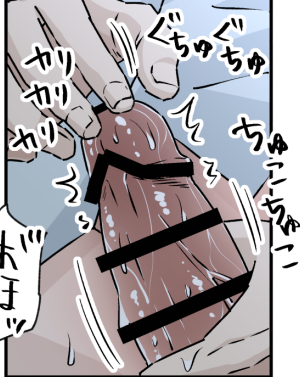
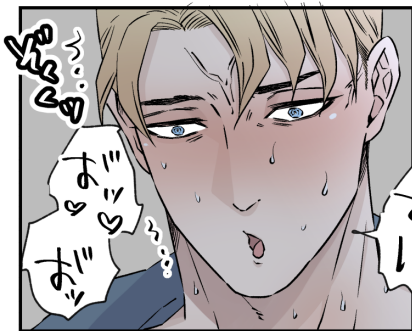


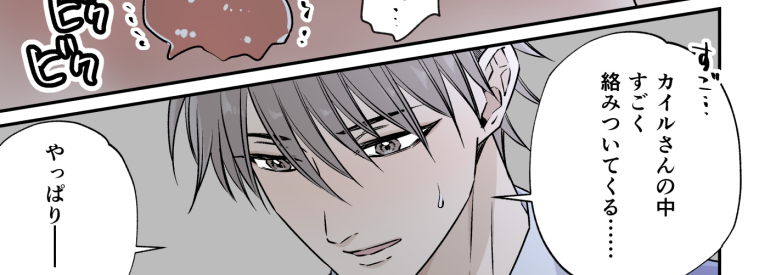
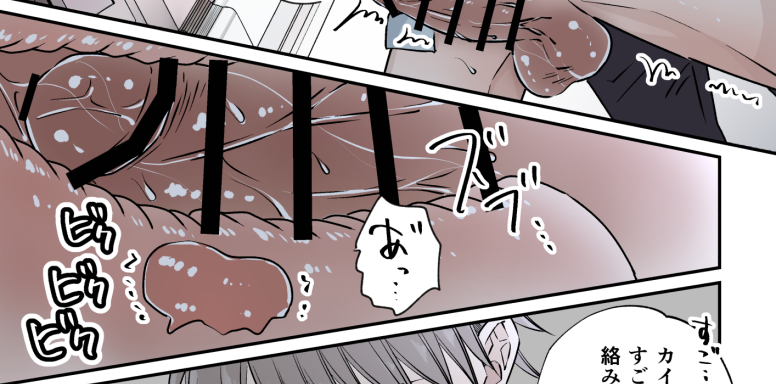
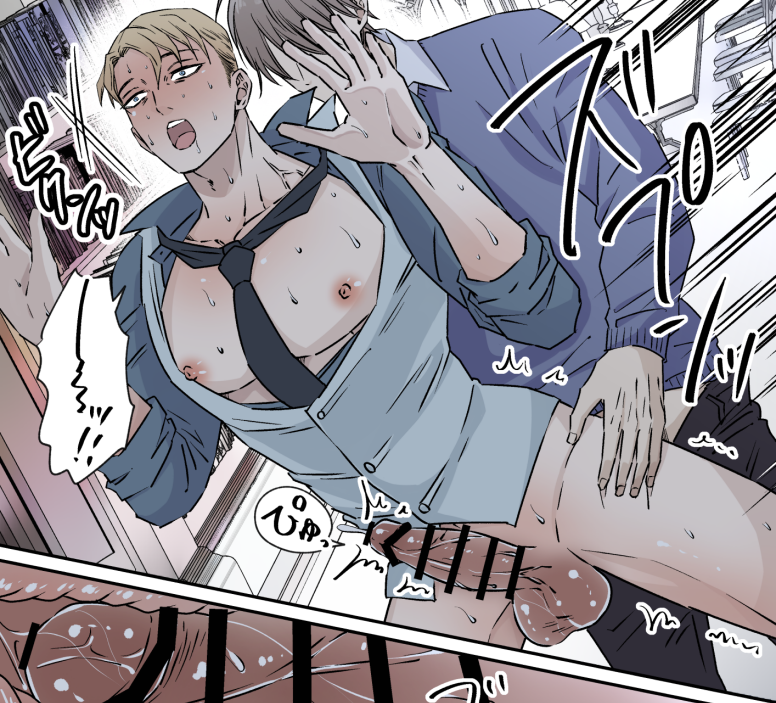
カリ
カリ

カリ
カリカリ

ん
ん
ん
ん

ん
ん
ん
ん





す……
カイルさんの中
すごく
絡みついてくる……

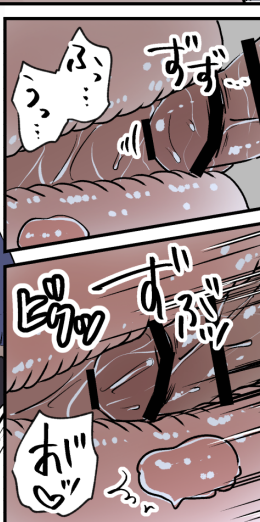
やっぱり——

僕たち
相性最高
なんですな



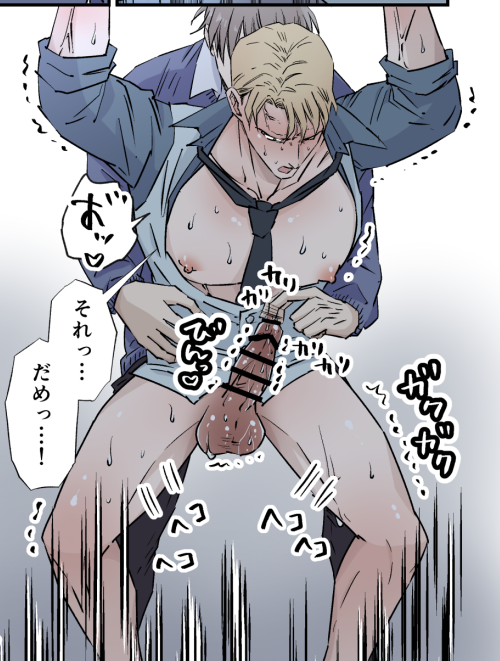
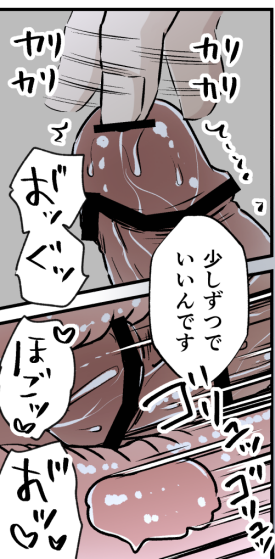
大きな声
出しちゃって
いいんですか？

館内にまだ
誰かいるかも
しれないのに



俺は
君が思っているほど
出来た人間じゃないっ…

僕はカイルさんの
全部を
受け入れたいんです



カイルさんが
僕に教えてくれたのは
本だけじゃない

あなたの優しさが
僕の心を癒してくれた
それが真実です

